

パブリック・コメント実施概要

1 実施期間

令和2年10月15日（木）から令和2年10月30日（金）まで16日間

2 意見募集結果

意見を提出された方 8名

意見の件数 32件

3 御意見と市の考え方

いただいた御意見の項目別の内訳は、以下のとおりです。

- ・少人数学級の実施について 9件
- ・学校の統合や複合化について 8件
- ・施設整備について 8件
- ・その他について 7件

御意見および市の考え方については、次頁以降に示します。

(1) 少人数学級の実施について

No.	御意見	市の考え方
1	<p>25ページの改修計画では、今まで計画的に改修や建替えを行なっていない、つけが一気に吹き出している。学校は何より子どもたちが安心して学べる場となるように、危険個所の改修を最優先として大至急やるべきと考える。子どもたちの成長には今が大切。コロナ対策のためにも、少人数学級を一日も早く実現することも力を入れて欲しい。諸外国では20人前後になっており、分散登校の時に少人数の有効性が実証されている。</p>	<p>学校施設の大規模な老朽化対策工事は、老朽化調査の結果や築年数等をもとに令和3年度から大規模な改修（老朽化対策）を実施する計画です。</p> <p>なお、児童・生徒にとって危険な場所については、個別に対応し、安全を図ってまいります。</p> <p>1学級の児童・生徒数につきましては、東京都教育委員会が国に対し、30人学級を要望していることから、当計画では1学級30人を基準にしています。</p>
2	<p>今コロナ下で、一つの教室の中は、密すぎるということで、少人数学級を今こそやるべきではないかと、親や子、教師の要望と共に、世界的にも、少人数学級に対する積極的に賛成する意見が支持されているところです。そういう時に人口が減る（かもしれない）可能性にしたがって、少人数学級になんら配慮のないまま、机上の空論のように削減策だけが優先される、国や市の方針に違和感を感じます。市としては若い家族に魅力的にうつる市政を計画して、それを優先させるべきではありませんか。都心に近くなおかつ緑豊かで、子供にとって健康的な場所にすることは市にとって不可能なことではありません。ぜひ積極的な案を示していただきたいと思います。</p>	<p>1学級の児童・生徒数につきましては、東京都教育委員会が国に対し、30人学級を要望していることから、当計画では現在の1学級40人から1学級30人を想定しています。</p> <p>当計画は、5年ごとに見直しを行い、今後、児童生徒が増加する傾向となった場合には、その状況に応じた学校施設数の見直しを実施致します。</p>

No.	御意見	市の考え方
3	<p>学校の適正規模と、学校が果たす地域での役割はどんなものでしょうか。機械的な数字では計り知れないものがあることは、「個別計画」(案)の中に地域の理解等々をあげております。学校があり、そこに通う子どもたちがいることは地域の活力にとって大切なものだと思います。</p> <p>少子高齢化は避けられないことだと思いますが、学校が多様な機能をこれからは持つべきだと思いますし、そこに元気な子供たちの声が響くことは大事だと思います。</p> <p>複合的な施設になることもメリットがあるのではと思います。ただ、その際に管理運営をどうするのかを丁寧に配慮しなければならないことは言うまでもありません。</p> <p>また、丁寧に一人一人に目が届く小規模校のメリットはたくさんあると思います。小規模だと何が問題となるのか、「特別支援教育」の場を利用する子どもたちが急増している昨今、小規模の良さを打ち出すべきだと思います。不登校の子供たちも増え続けていますよね。</p> <p>蛇足的かもしれませんが、青梅市の特別支援学級が大規模化しているわけです。もっと、分散小規模化すべきですし、急増する理由も検討される必要があるなと思います。</p>	<p>「(仮)青梅市学校施設のあり方検討委員会」で他の施設との複合化も含め、学校施設の統合、集約化について、十分に協議し、児童・生徒の保護者や地域住民の理解を得ながら、丁寧に進めてまいります。</p> <p>小規模校には、きめ細かな教育ができるというメリットもありますが、相互啓発がされにくいことや人間関係が固定されやすいこと、部活動が限定されることなども考えられますので今後の検討課題としてとらえています。</p> <p>特別支援学級に通う児童・生徒が増加している理由につきましては、一人一人の特性を捉えたよりよい教育の取り組みに対し、保護者の理解が進んだものと考えております。</p> <p>特別支援学級については、現行体制で対応を行い、特別支援学級対象児童・生徒数の動向を注視しながら慎重に検討してまいります。</p>

No.	御意見	市の考え方
4	<p>1 学級の人数を30人を出しています。そうだなと思います。ただ、コロナで分散登校した際に1クラス20人を切る「風通しの良さ」「一人一人の表情が丁寧にみられる」等々があり、さらに距離感を保てる「安全・安心」感もありました。1クラス20人で検討されてもいいのではと思います。</p>	<p>1 学級の児童・生徒数につきましては、東京都教育委員会が国に対し、30人学級を要望していることから、当計画では1学級30人を基準にしたところであります。当計画は、5年ごとに見直しを行い、今後、児童生徒が増加する傾向となった場合には、その状況に応じた学校施設数の見直しを実施致します。</p>
5	<p>1 4 ページ、学校規模の「適正化」を小学校12学級以上、中学校を9学級以上としているが、これは間違っている。「適正化」は地域の状況によると考えるべきである。山間地は6学級又はそれ以下も有りうる立場から、その地域の発展、人口を増やす又は定着させることを視野にあくまでも町づくりの発展の立場から考えるべきである。</p>	<p>学級数の基準は、学校教育法施行規則で定められております。学校施設の統合について、有識者、学校関係者等による「(仮)青梅市学校施設のあり方検討委員会」で協議し、児童・生徒の保護者、地域住民と協議してまいります。市では、人口減少、少子高齢化および地域経済の持続的発展を大きな課題として、「青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略」として取り組んでいます。</p>
6	<p>1 6 ページ「学級の最小規模を20人程度確保できること」としているが20に満たなければ統廃合の対象と言っているように聞こえる。 もしそうであるとするならばその町、その地域そのものが数年後にはなくなってしまう。これは全国の地方の村、町が示している。市政、行政は1人も見捨ててはならない。学級が1人、2人になろうとも複式学級になろうとも発展や人口増や定着の努力を最後まで追い求めていくのが人間社会であり、市政の当然の仕事である。</p>	<p>学校施設の統合について、有識者、学校関係者等による「(仮)青梅市学校施設のあり方検討委員会」で協議し、児童・生徒の保護者、地域住民と協議してまいります。市では、人口減少、少子高齢化および地域経済の持続的発展を大きな課題として、「青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略」として取り組んでいます。</p>

No.	御意見	市の考え方
7	<p>改修・改築（建替え）の見直しにあたっては現在の学級定数40人のままの「義務教育標準法」を早く改定を国に要請しなければ提示している「個別計画」の30人程度を基礎にしたこの計画すらおぼつかない。至急改定を要望してほしい。又今コロナ禍の中社会的要請は20人程度の学級である。</p>	<p>1学級の児童・生徒数につきましては、東京都教育委員会が国に対し、30人学級を要望しており、当計画では1学級30人を基準にしました。</p>
8	<p>20ページ、市が適しているというエ「適正な学校施設数の見直しによる整備方法」について。 No.1～No.4（番号5, 6, 7, 12, 13, 21）で述べた点からも撤回してほしい。初めから考え直してほしい。将来への学級の適正化基準はコロナ禍の中ゆきとどいた教育のためにも「できる子」「できない子」の差別的、能力主義的算数などの「習熟度別授業」をやめるためにも20人規模の学級が望ましいと社会的にも要望されている。そういう立場から考えれば26校がこれから先も青梅のすべての地域から維持発展することを期待されていると考える。最低12学級とか9学級即撤回してほしい。又22ページの予算については、5年後10年後ましてや40年後に国や都に、たいへんな自治体には全部責任を持たせるように市は都や国にさせていくべきである。それが市の能力であると思う。姿勢がその能力をためられている。</p>	<p>1971年（昭和46年）から1984年（昭和59年）の児童・生徒数の増加により、現在の小中学校26校が設置されました。しかし、それから2020年の現在に至るまでの期間で児童・生徒数はピーク時の半分に落ち込んでおります。加えて、20ページ表5より青梅市の児童・生徒数は、2020年と比較すると、2060年には約27%の減となる見込みです。そのため、今後40年間の児童・生徒数、学級数の変化を想定すると、小中学校数の見直しをせざるを得ない状況であります。</p>

No.	御意見	市の考え方
9	<p>児童・生徒の減少問題については、市としてその減少をどのように食い止めて“増”になるようにしていくのかビジョンも合わせて示して欲しい。</p> <p>子どもの減少に合わせた、より充実した教育環境を整えられるチャンスと考え、複合化、統廃合の考え方だけでなく、この際今社会問題となっている30人・20人学級の実現（コロナ禍の教育問題としては早急に解決させる必要がある）を果たしていく事も考えられると思うがいかなるものか！？</p>	<p>市では人口減少、少子高齢化および地域経済の持続的発展を大きな課題として、「青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略」として取り組んでいます。市では様々な方策を検討・実施しておりますが、計画内で示したとおり、児童・生徒数は減少すると見込んでおります。</p> <p>1学級の児童・生徒数につきましては、東京都教育委員会が国に対して、30人学級を要望していることから、当計画では1学級30人を基準にしたところであります。</p>

(2) 学校の統合や複合化について

No.	御意見	市の考え方
10	<p>計画の中に学校施設の目指すべき姿として、安全性、快適性、地域の拠点化、環境への配慮、学校規模の適正化が書かれていることは大部分理解できる。しかし「公共施設の総合管理計画」について内容を知っている方は少ないと思うし、再編計画を進めることについては慎重であるべき。学校施設の再編に関する基本方針が、地域性を勘案した集約化、市民センターとの複合化、および児童生徒数や適性学級数等を勘案し、長期的に学校施設の統合を検討するということであるが、学校は地域の文化の拠点、防災上も大きな役割がある。15ページには「適正化基本方針」と「総合管理計画」のもと、保護者、地域住民の理解を得ながら、学校施設の老朽化対策を図りつつ、学校規模の適正化を進めていくとしている。是非市内のすべての26の小中学校の保護者、地域住民を対象に、たとえば11の市民センターや、市役所などで丁寧な説明会や、アンケートなどを実施していただきたい。</p>	<p>今後の新たな学校づくりについては、有識者、学校関係者等による「(仮)青梅市学校施設あり方検討委員会」で協議し、児童・生徒の保護者、地域住民の理解を得ながら、丁寧に進めてまいります。</p>

No.	御意見	市の考え方
11	<p>21ページの学校の想定数（2060年）が現状の半数近い数字で驚く。</p> <p>40年というスパンが長すぎるが、人数が減ることだけを前提とせず、子育てに魅力ある青梅作りと合わせて、増やしていく施策こそが大切ではないか。集約化が必要な時は、23ページにあるように保護者、住民の理解を第一に考え、ていねいに進めることを忘れずに。学校は地域の中心として大切な存在と考える。</p>	<p>市では、将来に対し「青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少、少子高齢化および地域経済の持続的発展のため、様々な方策に取り組んでおります。ただ計画内で示したとおり、児童・生徒数は減少すると見込んでおります。</p> <p>有識者、学校関係者等による「（仮）青梅市学校施設あり方検討委員会」で十分に協議し、児童・生徒の保護者、地域住民の理解を得ながら、進めてまいります。</p>
12	<p>この（案）は、17.3月策定した「青梅市公共施設等総合管理計画」の40年間で3割床面積削減の学校版にすぎない単なる統廃合案と言わざるを得ない。</p> <p>学校の改修・建替え案は「総合長期計画」から切り離し「それぞれの地域をどう活性化した街に作るか」又は「その地域の子どもたちにどう安心して一人一人を大切に教育をうちたてるか」の観点に立った短中期的な案を示すべきではないだろうか。又案を作る前段階で住民・保護者・児童生徒からもアンケートや意見を聞きとって作成し提示すべきと考える。</p> <p>以上から先ず①「個別計画案」を見直し、アンケート、意見を可能な限り集約し提示し直すこと。②又、公共施設3割減の「総合長期計画」も見直しを要望します。</p> <p>40年後の長期は次世代にまかせたらいかがでしょうか。</p>	<p>1971年（昭和46年）から1984年（昭和59年）の児童・生徒数の増加により、現在の小中学校26校が設置されました。</p> <p>しかし、それから2020年の現在に至るまでの期間で児童・生徒数はピーク時の半分に落ち込んでおります。加えて、20ページ表5より青梅市の児童・生徒数は、2020年と比較すると、2060年には約27%の減となる見込みです。</p> <p>そのため、今後40年間の児童・生徒数、学級数の変化を想定すると、小中学校数の見直しをせざるを得ない状況であります。</p> <p>統合、複合化等を実施する時期に合わせ有識者、学校関係者等による「（仮）青梅市学校施設あり方検討委員会」で十分に協議し、それぞれの学校の建替えや統合の時期に合わせ、児童・生徒の学校の保護者、地域住民の理解を得ながら、丁寧に進めてまいります。</p>

No.	御意見	市の考え方
13	<p>25ページ「今後の新たな学校づくりについては、「(仮)あり方検討委員会」の検討のもと、各学校の建替え時期に至るまでに、各地区の保護者、地域住民等と協議し、理解を得ながら進めていきます」について</p> <p>「(仮)あり方検討委員会」の検討のもとではなく今すぐ、この「個別計画(案)」と10/30までのまとめられたパブコメを地域住民。保護者「児童・生徒」にも示し、先ず意見をたくさん集約した上で、そのたくさん意見を分析検討しながら「(仮)検討委員会」で検討し、そのもと、地域住民、保護者等と協議・理解を重ねながら進めるべきである。</p> <p>即、案を住民に示し、形だけの“意見を聞いた”のこれまでのような進め方にならないようにしてほしい。先ず最低これだけは貫徹してほしい。よろしくお願いします。</p>	<p>個別計画案につきましては、教育委員会のホームページ上で閲覧できます。また、いただきましたご意見は、市ホームページで公表いたします。</p> <p>今後については、有識者、学校関係者等による「(仮)青梅市学校施設あり方検討委員会」で協議し、児童・生徒の保護者、地域住民の理解を得ながら、進めてまいります。</p>
14	<p>老朽化、人口減を理由に、適正な規模にする、適正な学校数にするという発想は行政側の視点であって市民や子供達の視点では、学校が近くにあって通い易いというのが大事である。地域の特性・事情を考慮するという観点からよくよく地域市民との話し合いを重視して欲しい。</p>	<p>有識者、学校関係者等による「(仮)青梅市学校施設のあり方検討委員会」で協議し、児童・生徒の保護者、地域住民と協議してまいります。</p>

No.	御意見	市の考え方
15	<p>青梅市内の公共施設は、市役所、生涯学習センター、第二小学校、中央図書館を除くと、ご指摘のように老朽化が著しいと思います。数年前には、中学校の天井屋根が落ちたとも聞いています。市民センターももう少し新しく明るい環境だといいなあと感じます。</p> <p>さて学校の施設についてですが、11ページ～13ページに、各校の状況調査の結果が掲載されていますが、Dランクがいくつもあがっていることが大変気がかりです。それぞれに改修計画は出来ているのでしょうか、子どもたちにけが等が生じた場合、市はどのような対応をされるのかと気がかりです。市の財政状態から立て直すのは大変だというように読めましたが、ほかの事業よりも優先させなければいけないように思います。計画案の各所に“困難です”の文言が見られ、そこをなんとかやりくりするのが行政なのではと少々いかりを感じます。</p> <p>21ページには、学校数の適正規模の想定数が出されていますが、現在でも中学校は、自転車通学をしているところがあり、どことどこが合併するのだ？子どもたちは（親も含めて）通学が大変な状況になるように感じました。地域や保護者も含め大いに議論をしてほしいです。</p>	<p>有識者、学校関係者等による「(仮)青梅市学校施設のあり方検討委員会」で協議し、児童・生徒の保護者、地域住民と協議してまいります。</p> <p>学校施設の大規模な老朽化対策工事は、老朽化調査の結果や築年数等をもとに令和3年度から大規模な改修(老朽化対策)を実施する計画です。</p> <p>なお、児童・生徒にとって危険な場所については、個別に対応し、安全を図ってまいります。</p>

No.	御意見	市の考え方
16	<p>1 5 ページ 4(1)学校規模の適正化基本方針、2 1 ページ表 6</p> <p>小学校の想定では、1校 18 学級 540 人とありますが、現在市内 4 番目に大きい若草小（特別支援学級もあり単純には比べられないとは思いますが）や、5 番目に大きい河辺小でもその条件を満たしていません。表 6 は、一つの案であるとは思いますが、無理があるように思います。</p> <p>少子化の見通しがあるなら、いかにそれを食い止めるかの施策がまず必要であると考えます。学校規模の適正化で、学校が統廃合された地域では、子どもは育てにくく、子育て世帯は離れ、高齢化・過疎化が加速する事が考えられます。</p> <p>「児童が減るから学校を減らす」という計画のもとでは、少子高齢化はどんどん加速していき、青梅市そのものの存続も難しい事態になるのではないのでしょうか？子育てしやすく、住み続けられる青梅市にして欲しいと強く願います。</p>	<p>市では、人口減少、少子高齢化および地域経済の持続的発展を大きな課題として、「青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略」として取り組んでいます。</p> <p>将来人口の減少に対し、市では様々な方策を検討・実施しておりますが、計画内で示したとおり、児童・生徒数は減少すると見込んでおります。</p> <p>新たな学校づくりにつきましては、有識者、学校関係者等による「（仮）青梅市学校施設のあり方検討委員会」で協議し、児童・生徒の保護者、地域住民と協議してまいります。</p>
17	<p>1 4 ページ 3(3)地域の拠点化</p> <p>学校施設は地域の拠点となるので、その拠点となる学校は無くさず、地域を活性化させるためにも学校にこそ予算を投じるべきだと考えます。</p> <p>学校を減らすのではなく、いかに青梅市の人口を増やし、児童を増やして学校を存続させるかを第一に考えて計画を立てる事を求めます。</p>	<p>市では、人口減少、少子高齢化および地域経済の持続的発展を大きな課題として、「青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略」として取り組んでいます。将来人口の減少に対し、市では様々な方策を検討・実施しておりますが、計画内で示したとおり、児童・生徒数は減少すると見込んでおります。</p> <p>今後の児童・生徒数を考えますと、学校数の考慮をせざるを得ない状況であります。</p>

(3) 施設整備について

No.	御意見	市の考え方
18	<p>11ページから13ページには、学校施設の老朽化状況が記載されているが、早急な対応が必要なD判定が、屋上・屋根、屋内運動場が6校、外壁がD判定の校舎、屋内運動場が9校との事は驚きである。学校は安全で安心して過ごせる場所でなければならない。改修工事を優先し早急な対応を求める。</p>	<p>老朽化対策工事は、老朽化調査の結果、評価の低い学校と、築年数が経過している学校を対象に大規模な改修（老朽化対策）を実施する計画です。</p> <p>ただし緊急的な補修が必要な場合につきましては、その都度対応してまいります。</p>
19	<p>随所で触れられておりますように、学校は子どもたちにとって安心、安全が第一であります。校舎の老朽化が進んでいて、たくさんの学校で対応が早急に求められております。</p> <p>27ページ、29ページに第二期の「老朽化対策」があり、「補修の優先度」が検討されていますが、ある学校では、生徒や教職員の玄関に「上からの落下物注意」とコーンで仕切られている期間がありました。その後、応急修理されましたが、その間、何もなくて本当に良かったと思えました。かなり、C判定でもD判定に近いものがあるように思います。</p> <p>そのように考えますと、最終終了が2030, 31年度になっており、何か起こらないかと冷や冷やするものです。可及的速やかに対応すべきだと思います。</p>	<p>令和3年度から学校施設の大規模な老朽化対策工事は、老朽化調査結果と築年数等を踏まえて実施する計画です。</p> <p>なお、児童・生徒にとって危険な場所については、個別に対応し、安全を図ってまいります。</p>

No.	御意見	市の考え方
20	<p>施設設備の改修計画の中で、学校の多様な機能が触れられています。</p> <p>近年の異常気象において「避難場所」としての役割が重要になっています。また、コロナ対応が従来よりも避難場所の役割を複雑化させている昨今で、地域の自治会館も「避難場所」として開放することも要請されております。居住地区では、今年の台風で200名を超える方々が体育館や市民センターに避難されました。</p> <p>体育館（屋内総合運動場）の空調設備も求められていますかどうでしょうか。授業でも熱中症対策でも効果があると考えています。</p> <p>また、避難場所となるとバリアフリーになることは切実です。日常の学校でも骨折などで必要です。また、インクルーシブ時代ですから多様な状況の人が学校にくるわけです。その点が触れられていないように思いますがいかがでしょうか。</p>	<p>児童・生徒の教育環境改善のため、現在、校舎トイレ改修工事および特別教室等空調機整備工事を実施しています。</p> <p>また、災害時に避難所となることも踏まえ小・中学校の屋内運動場の照明器具等非構造部材耐震化工事を計画的に実施してまいります。</p> <p>学校体育館の空調設備につきましては、今後の課題と捉えております。</p> <p>インクルーシブの問題も含め、学校における多様性への対応についても取り組んでまいります。</p>
21	<p>二小以外逸機に改修や建て替えが必要になっていって長期維持困難になっている現状は「計画的修繕及びその予算化」を怠ってきた“怠慢”と言わざるを得ない。率直にその点は詫びるべきである。</p> <p>そのもとで、地域住民、保護者、児童生徒、関係者の意見、アンケートで聞き取りを行い「修繕予算化・建替え等」の案を示し、又提案し意見をとピストン作業を行いながら進めるべきと考える。その際細目に地域ごと意見の集約、聞き取りの懇談会をくり返し行ってほしい。</p>	<p>学校施設の統合、集約化の際には、有識者、学校関係者等による「（仮）青梅市学校施設のあり方検討委員会」で十分に協議し、それぞれの学校の建替えや統合の時期に合わせ、児童・生徒の保護者、地域住民の理解を得ながら、丁寧に進めてまいります。</p>

No.	御意見	市の考え方
22	<p>当面は道路や青梅インターなどの開発などを見直し、怠ってきた教育施設に2倍3倍と予算を増やすことが前提である。又国や都にもっと助成金を増やすよう市として要望し続けてほしい。</p>	<p>一つの御意見として伺います。</p>
23	<p>(1)に記載があるように“校舎の多くが40年以上経過し・・・”とあるが、そのことは建築した当初から40年後には老朽化し、改修・改築が必要になることは明白の理。</p> <p>市が財政負担軽減を言うのであれば、市はこれまで計画的に取り組み、当然長期計画の中で校舎の寿命をいかに延ばしていくか等、すでに実施されていなければ市民に対して、どう説明し弁明するのかを正したい。その説明を聞いてからでないといこれから40年先の計画を出されてもその信憑性が疑わしく思える。</p>	<p>いただきました御意見は、参考とさせていただきます。</p> <p>今までは、各学校からの報告を中心に、不具合のある個所について、短期的な予定を立てて改修を行ってまいりました。</p> <p>しかし、平成30年度に老朽化調査を実施したことと、国が計画策定を推奨していることもあり、中長期的な個別計画を策定しようとするものです。</p>
24	<p>18ページの今後の整備方法に於いては、縮小・廃棄ではなく昭島市の“エンシス”(大型郷土博物館)のように子どもや市民が楽しく見学・学習ができるような施設に活用していく事もかんがえてみてはどうか。</p>	<p>施設の複合化については検討いたします。</p> <p>学校施設以外の活用については、検討いたします。</p>
25	<p>25ページの当面の改修計画については早急に実施しなければ不具合という時限ではなく“危険”と判断される個所が見られる校舎も多くあり、早期に計画的に実施することを要望する。</p>	<p>学校施設の大規模な老朽化対策工事は、老朽化調査の結果や築年数等をもとに令和3年度から大規模な改修(老朽化対策)を実施する計画です。</p> <p>なお、児童・生徒にとって危険な場所については、個別に対応し、安全を図ってまいります。</p>

(4) その他について

No.	御意見	市の考え方
26	<p>パブコメの募集期間をもっと長くすべき。本当に市民の意見を聞く気があるなら2週間は短過ぎる。</p>	<p>青梅市の要綱「パブリック・コメントに関する指針」において、提出期間を「14日以上設けること」と定められており、10月15日から30日まで実施といたしました。</p> <p>今後も、市民の意見を聞く機会を設けてまいります。</p>
27	<p>「通学所要時間が1時間以内」と統合された際のことと述べています。今、小学校も3年生以上はほとんどが6時間授業、中学は言わずもがなです。下校時間が毎日遅くなっています。中学だと4時近くに下校となります。日が長い時期はまだしも、短いときはどうでしょうか。</p> <p>「1時間以内」というのは長すぎます。一応目安の距離は示されていますが。</p>	<p>通学距離につきましては、国の基準により、小学校は概ね4キロメートル以内、中学校は概ね6キロメートル以内とされており、本市の地域も広いことから、小・中学校ともに概ね1時間以内としたところであります。</p> <p>今後は、有識者、学校関係者等による「(仮)青梅市学校施設あり方検討委員会」で十分に協議し、児童・生徒の保護者、地域住民の理解を得ながら、丁寧に進めてまいります。</p>
28	<p>プールの民間施設の利用、近隣学校との共用も述べられてもいます。</p> <p>確かにプールの維持管理はお金がかかりますが、この夏のプール中止は子どもたちにとってどうだったのでしょうか。</p> <p>民間、共有利用はうまくいくように思えません。</p>	<p>今夏の水泳授業につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、やむを得ず中止としたところです。</p> <p>一方、水泳インストラクターから指導を受けることで水泳技術の向上が見込まれ、またアンケート調査でも高い評価が得られていることから民間施設も活用する方針です。</p> <p>加えて学校のプールは、老朽化が進行しており、維持管理費を鑑みる民間施設のプールを活用した方が、経費削減になります。</p> <p>また、近隣学校との共用利用については、今後の検討課題と考えています。</p>

No.	御意見	市の考え方
29	<p>財源が潤沢でない状況が続く中で、何かと財政運営は素人にはわからない厳しさがあることと思います。ただ、子どもたちは日々成長しています。14ページ「学校施設の目指すべき姿」の「(1)安全性、(2)快適性、(3)地域の拠点化、(4)環境への配慮」が大事にされた結論が出ますようにお願いするものです。</p>	<p>市の財政運営にご配慮いただきありがとうございます。いただきました御意見は、参考とさせていただきます。</p>
30	<p>交通機関について 生徒・児童減のもと、成木小は概ね維持している。 これはスクールバスや幅広く在籍をうながしたり、先生方、地域の方々などの努力や工夫が実っている表れだと思う。(七中もスクールバスを走らせてほしい。)これから先の対応は、この成木小などの工夫や努力に学ぶ必要があると思う。</p>	<p>一つの御意見として伺います。</p>
31	<p>今回このような新しい計画を示すに当たって、これまでも計画・実施がどうであったのか、どこまで達成でき、達成できていないかを先ず示してから、現状を踏まえた背景、そして目的・・・と進めていかなければ市民には分かり難い。</p>	<p>個別計画策定の背景・目的は、国の「インフラ整備計画」、市の「総合管理計画」のもと、文部科学省が各自治体に学校施設の維持管理、建替え等による予算平準化のための整備計画策定を推進しているものです。</p>

No.	御意見	市の考え方
32	<p>最後に、今、国から急に出された「ギガスクール構想の受入れを表明したようですが、コロナ禍で突然政府から出された一律休校の押しつけと似ていて、その対応にどの自治体も困惑し、結果的には、「学習の遅れが発生し」「学校の担う本来的な役割が果たせず」「全てが家庭に丸投げされ」子どもたちの健全な発展の権利さえ奪われたあの事と重なります。</p> <p>何の準備、研究期間もなく受け入れ、果たして良い方に向かうか心配です。</p> <p>このことは今市が出している“学校施設個別計画”にも何か支障があるのではないかも危惧されます。</p> <p>自治体とは、市民と共に歩み、進めてこそ価値があるものになり、市民からも信頼され、大きな協力・支援が得られるものだと思います。</p> <p>このコロナ禍で、各自治体に於いては発想の転換と未来を深く見据えた、夢と希望が持てる事業の発展を進める機関を創って、若い人材を大いに育ててほしいと願います。</p>	<p>いただきました御意見は、参考とさせていただきます。</p> <p>ギガスクール構想では、児童・生徒へ一人一人にタブレット端末を貸与し活用を図ってまいります。</p>